

法人名	横浜市
施設名	横浜市井土ヶ谷保育園

発表者名 (職名)	金山 香織 保育士	住所	横浜市南区井土ヶ谷下町13-17		
発表者名 (職名)		TEL	045-715-1088	FAX	045-715-0184
発表者名 (職名)		メールアドレス	mn-idogaya@city.yokohama.jp		
		URL			
		定員	117名	職員数	51名

発表の概要・内容

1. 提案趣旨

昨年度まで、コロナ禍のため散歩や異年齢、世代間の交流等が制限された生活が続き、子どもの心と体の健康について不安がありました。そこで、4月の子どもたちの様子を見て、『全身を動かして運動遊びを楽しむ、健康で丈夫な体をつくる』ことを年間保育目標の一つとし、4歳児の保育をしていく上で特に『健康』『食べること』『体づくり』の3点を意識して保育に当たることになりました。

2. 実践内容

(春) 担任間で話し合い、子どもたちにも「健康な体をつくるためにどのようなことをすると良いか？」を聞いてみたところ、『外でたくさん遊ぶ』『散歩に行き、体を思いきり動かす』『体操、リズム遊びをする』『ご飯をしっかり食べる』などの考えが出てきました。そこで、戸外遊びの時間を多く取り、散歩の機会を増やしていくと、いっぱい遊んでお腹が空くリズムがついてきました。

(夏) 様々な活動に意欲が見られるようになってきました。いつもは室内で行っていたリズム遊びを「外でやりたい!」と言う子どもの一言がきっかけで、園庭でも楽しんだり、夏の終わり頃から、『今日やりたい遊び』をサークルタイム(子どもたちが輪になって座り、互いが一人一人の顔を見ながら話したり意見交換をしたりする活動)で決めたりしてきました。

(秋) 幼児組になって初めて、保護者に観に来てもらえる運動会を経験することになり、当日までたくさんサークルタイムを持ちました。自分たちの意見がもれなくボードや模造紙に書き込まれていく様子を見て、自分の思いが認められた嬉しさや話を聞いてもらえる安心感から、どの子も自分の考えを伝えられるようになっていきました。また、食育の取り組みでは、毎月発行される園児向けの献立表や食材写真を貼りだしておく、使われている食材を確認して、給食の時間、自分が苦手な食材や食べられる量を知らせて調節することで、自分なりに苦手なものも食べてみようと思えるようになり、自分が食べられる量も分かってきました。

(冬) 自分たちの遊びや生活が、ますます充実してきて、周囲の環境に目を配るようになり、少しずつ乳児クラスの入室を手伝う姿も見られるようになりました。

3. 一年の実践を終えて

昨年度まではコロナ禍のため、様々な制限がある中で出来ることを考え、工夫を重ねて保育してきました。特に、この一年は、春先に『自分たちの体づくりに必要なこと』の話し合いをきっかけに、『散歩』『戸外遊び』『リズム遊び』を保育に取り入れ、お腹が空いて『給食をしっかり食べる』生活リズムができていきました。また、サークルタイムを設けることで、自分たちの考えが共有されたり、認められたりする経験から安心して発言し、積極的に話すようになっていったと感じます。この一年の取り組みの中で、子どもたちにとって『健康』とは、安心して過ごせる環境の下で、のびのび過ごし、自分の気持ちを表現するなど、子どもの育ちすべてに繋がっていることを再認識できました。これからも子どもたちとたくさん対話して、遊んで、様々な気持ちを共有し合って保育していきたいと思えます。

メモ